



赤い羽根
福祉基金

× 盛和塾

2019年度 赤い羽根福祉基金 「盛和塾 社会人定着応援プログラム」 お礼とご報告

ごあいさつ

- 中央共同募金会では、2018年度より、盛和塾塾生の皆さまからのご寄付を財源として、「赤い羽根福祉基金 盛和塾社会人定着応援プログラム」を創設しました。
- 盛和塾塾長である稲盛和夫氏の、「社会的養護^(*)が必要な子どもたちの真の幸せ」を願う想いを受け、本プログラムは、児童養護施設の退所者^(**)が、自らの未来に希望を抱きつつ、社会人として生きがいを感じながら生活していけるよう支援を行うことを目的に設置されました。
- 児童養護施設の退所者の多くは、親からの支援を受けられず、未成年で自立することが求められます。そのようななか、自分の夢を実現するため、高校卒業後に大学（短期大学、専門学校も含む）に進学して、自活しながら勉強を続ける退所者は、高卒者の約25%に留まります^(***)。
- そこで、2018年度より高校卒業後の進学者の就職活動時にかかる費用を応援する「就職活動応援助成」事業、2019年度より国家資格等の取得にかかる費用を応援する「手に職つけよう応援助成」事業と、離職した児童の再就職に向けた相談支援にかかる費用を応援する「リスタート応援モデル助成」事業への助成を実施しています。
- このような多額の助成を行うことができましたのも、ひとえに稲盛和夫氏ならびに塾生の皆さまのご理解の賜物です。どんな環境にあっても、等しく自分の未来のためにチャレンジしていくことができる仕組みづくりにご協力いただき、心から感謝申し上げます。

(*) 社会的養護：保護者のいない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う事（厚生労働省HPより）。

(**) 児童養護施設の退所年齢は原則18歳までであり、措置延長は原則20歳までとなっています。

(***) 平成28年度児童養護施設入所児童の進路に関する調査 報告書（全国児童養護施設協議会）による。

赤い羽根福祉基金「盛和塾 社会人定着応援プログラム」ご紹介

- 児童養護施設の退所者が、社会人として自立した生活が送れるよう支援を行うことを目的に下記の「就職活動応援助成」「手に職つけよう応援助成」「リスタート応援モデル」を立ち上げました。

* 就職活動応援助成（2018年度～実施）

児童養護施設を退所して進学した者の在学中の就職活動時にかかる費用として、一人あたり10万円を助成します。

【助成対象の費用例】

- 就職活動時の生活費
- 就職活動に必要なスーツや靴、鞆等購入費
- 就職活動に要する旅費
- 就職に必要とされる資格取得費 等

【助成対象者数】

2018年度：63名 2019年度：47名（予定）

就職活動時はアルバイトもなかなかできない状況で、面接会場までの交通費などで出費はたくさんありましたが、助成金をいただいたおかげで、お金の心配が減り、就職活動に集中することができました。

（女性・大阪県・専門学校2年）

* 手に職つけよう活動応援助成（2019年度～実施）

児童養護施設を退所して大学や専門学校等で学ぶ者の国家資格取得に向けた費用として、一人あたり10万円を助成します。

【助成対象の費用例】

- 国家資格等取得に必要な備品費
- 国家資格等取得に必要な教科書・書籍購入費
- 国家試験等の受験費（模試受験料や試験対策講座受講費などの受験準備費を含む） 等

【助成対象者数】

2019年度：54名（予定）

病院を退院した後の高齢者の方や妊婦さんまで、包括的にサポートできるような看護師になることが、私の目指すところです。

（女性・埼玉県・専門学校2年）

* リスタート応援モデル助成（2019年度～実施予定）

児童養護施設等の退所者の離職に伴う再就職に向けて金銭支援も含めた伴走型支援に関わる費用として、一施設・機関あたり年間180万円を上限として助成します。なお、一ケースあたりの支援費用30万円を上限とします。

【助成対象の費用例】

- (1) 支援対象者が離職に伴い再就職に向けて生活維持や求職活動にかかる費用
 - 離職に伴う一時的な生活費、居住費
 - 求職活動にかかる必要な費用
 - 再就職に必要とされる資格取得費 等
- (2) 施設・機関が支援対象者に対し再就職に向けた相談支援を行う際に必要な費用
 - 相談支援にかかる交通費、通信費
 - ケース対応にかかる人件費

【助成対象施設・機関】

2019年度：5施設・機関（予定）

2018年度 就職活動応援助成 助成対象者の声

助成対象者からのお礼のお手紙

自分の家庭の事情で児童養護施設に入所し、その後の専門学校への進学は精神的にも経済的にも思っていた以上にしんどかったです。学費以外にも予想していなかった出費が続き、このような支援をして頂けることはありがたかったです。社会の皆様が支えて下さっていることを希望にして頑張ることが出来ます。ありがとうございました。（男性・京都府・専門学校3年）

助成金をくださったこと、このような制度を利用させてくださることによって、就職活動で使える金額が増え、「遠いから」等の理由で悩んでいた会社の説明会や面接に行けることができました。また、助成金でコートやストッキング等を買えたことで、食費などをおさえずにすみ、がまんしすぎることもありませんでした。本当にありがとうございました。今後も私が卒園した施設の子たちにもこのような制度が利用できることを願っています。（女性・京都府・大学4年）

皆様の応援には本当に感謝してもしきれません。経済的支援は夢を追いかける者にとってとても貴重な助けになります。自分は大学で様々な力を身に付け国家試験も合格しました。春から同じ境遇にいる子ども達の支援を行うお仕事に就きます。今まで支えて頂いた全ての方々へ恩返しのできる気持ちで頑張ります。（男性・宮崎県・大学4年）

◆ 助成を受けた対象者からのアンケートより

2018年度に実施しました「就職活動応援助成」を受けた皆さんから、就職活動終了後にいただいたアンケートの回答から一部をご紹介します。

■ 助成金は主にどのような費用に使いましたか？

就職活動を始めるために、スーツ2着、靴1足を購入し、身だしなみを整えました。（男性・兵庫県・大学4年）

ビジネスマナー講習に参加することで、自信を持って就職活動を行うことができました。（男性・埼玉県・専門学校2年）

■ 施設を出て自活してきたなかで、いちばん困難だと感じたことはどんなことですか？

施設を出て、私が一番苦労してきた事は、経済面、資金のやりくりです。一切の仕送り等を得られる状況ではなかったため、奨学金とアルバイトのみで4年間ほぼやりくりをしてきました。（男性・滋賀県・大学4年）

バランスのとれた食事を取ることの難しさを感じました。毎日3食、栄養バランスのとれた食事が当たり前食べられる環境の素晴らしさを痛感いたしました。（女性・大阪府・専門学校2年）

■ 施設を出て自活してきたなかで、支えになったことは何ですか？

施設を出て自活するなかで、私の支えとなったことは、友人や施設の職員の方との、電話や、メールなどのやりとりです。まだまだ未熟である私を、皆様が、時には叱責、時には励ましを下さりながら、接して下さった事が私の一番の支えとなっています。（男性・滋賀県・大学4年）

今、施設で生活している子どもたちが私みたいに大学に行きたいと言ってくれたことです。（女性・兵庫県・短期大学3年）

「赤い羽根」を通じた社会貢献活動のご紹介

「赤い羽根」は、3つの方法で「地域」を支えています。

全国すべての都道府県・市区町村で困りごとを解決している「赤い羽根共同募金」。

わが国の制度の狭間にある課題を、広域的、先駆的な取り組みにより解決する「赤い羽根福祉基金」。

そして、「赤い羽根」による災害時の支援として、毎年の赤い羽根共同募金の積み立てから緊急支援する「災害等準備金」、災害ボランティアの活動を支える「支援金（ボラサボ）」、被災した世帯へのお見舞い金を給付する「義援金」の実施という、「地域」「広域」「災害」をテーマに、国内のあらゆる地域を支えています。

「赤い羽根」はこの取り組みを生かして会社や団体、個人の皆さんの社会貢献活動をお手伝いできます。ぜひ中央共同募金会にご相談ください。

◆ 地域と赤い羽根

赤い羽根共同募金



助成総額 155.3 億円
(平成 29 年度)

- 47 都道府県の共同募金会が運営
- 地域の多様な福祉課題解決に取り組む、毎年全国 5 万件の民間団体へ助成

《取り組み事例ご紹介》

- NPO 法人きらら女川(宮城県女川町)
- 「ボランティア活動」「食」を通じて世代間交流と子どもたちの健全な育成を図ることを目的として、世代を超えて1つの食卓を囲み、高齢者がいきいきと活動のために活躍する場、子どもが安心して安全に過ごせる場を提供しました。



赤い羽根福祉基金



助成総額 1.3 億円
(平成 31 年度)

- 中央共同募金会が運営
- 公的制度では対応できない課題の解決をめざし、全国的・先駆的な取り組みを行う民間団体へ助成

《取り組み事例ご紹介》

- 一般社団法人 Colabo(東京都渋谷区)
- 夜の街をさまよう未成年者らとつながるため、バスを改造したカフェを拠点に、毎月週1回夜、渋谷または新宿・歌舞伎町の繁華街にて、無料で飲み物や食事を出したりして、困りごとなど身近に相談にのることにより、未成年者に対する性暴力や犯罪などから彼女たちを守り、必要な支援につなげていく活動に取り組んでいます。



災害時の共同募金の働き



ボラサボ(平成 30 年度)
助成決定額 2.7 億円

- ① 災害等準備金による緊急支援(災害ボランティアセンターの設置など)
- ② 支援金(ボラサボ)の実施(災害ボランティア活動支援)
- ③ 災害義援金(被災者へのお見舞金)

《災害支援金「ボラサボ・豪雨災害」による取り組み事例ご紹介》

- NPO 法人ひうちなだ(愛媛県宇和島市)
- 7 月豪雨災害の被害翌々日からボランティア活動を行ってきました。前半は家屋の土砂撤去・瓦礫運搬・家財等の支援を行い、後半は、重機を持ち込んでの、土砂崩れで埋もれたみかん畑の農道整備を重点的に行いました。



◆ 「盛和塾 社会人定着応援プログラム」へのご寄付のお願い

皆さまからのご寄付は、施設を退所して一人で生活していく児童にとって、大きな支えとなっています。稲盛和夫氏の社会活動の想いを受けて実現した当プログラムですが、4 万人を越す社会的養護施設で生活する子どもたちの将来的な自立のために、皆さまからのご寄付をぜひお願いいたします。

銀行振込 > 三菱UFJ銀行 本店
普通預金 7637820
口座名 中央共同募金会

クレジットカード >



※赤い羽根に対するご寄付には、税制上の優遇措置があり、感謝状の発行もいたします。

くわしくは中央共同募金会のホームページをご確認ください。

中央共同募金会

click

◆ お問い合わせ先

社会福祉法人中央共同募金会 基金事業部

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5 階

TEL:03-3581-3846 / FAX:03-3581-5755 Eメール kikin@c.akaihane.or.jp